会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第1回学習評価WG |
| 開催日時 | 令和2年8月26日（水）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：植上　一希、岡村　慎一、近藤　賢宏、岩﨑　千鶴、田澤　初美、瀧本　知加、小田　茜、丹田　桂太、佐藤　昭宏、　　　　　　　　　　　　　　　 計10名オブザーバー：渡邉　晶帆、内川　穣太　　　　　　　　　　 計 2名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計13名 |
| 議題等 | 1. リーダーあいさつ（植上）
2. 事業概要の説明（岡村）

・専修学校教員の質保証・向上を進めるために必要な教職員研修プログラム開発事業・本WGでは学習評価研修プログラムを開発する。・非認知能力(人間力)の評価基準の作成⇒専門学校の優位性を確立・3年後には開発した教員研修プログラムの普及を図る。2. 学習評価WG事業計画案の説明（植上・佐藤）・昨年度までの事業と2020－22年度の目的　前事業の学校調査から優先度が高く、専門学校に必要と選択された研修テーマを踏まえ、非認知能力の評価に焦点を当て、評価基準作成のための「手引き」と「研修プログラム」を作成する。・2020－22年度の問題意識　非認知能力は専門学校生・卒業生、教員にとって重要だが、専門学校教育で適切(明確)に位置づけられていない。分野別の評価シート、シラバスが必要。・2020－22年度の課題設定　専門学校教員が非認知能力を目標・評価していくための基本的な手順を整理し手引きを作成。手引きを元に研修プログラムを開発。・2020－22年度の方法設定　プログラム開発のための客観的な根拠収集・「手引き」作成のための事例収集・モデル作成・検討　　※大学等と比較し専門学校教育で必要な、優位性をもつ非認知能力の整理(授業や行事で学習・評価できる/できない項目等)も検討していく。　　※専門学校の非認知能力の特性を踏まえ、どのような評価シートを目標とするのか検討する必要があるのでは。3. アンケートについての検討　・役割分担　リーダー：佐藤、メンバー：植上・丹田学校協力：近藤アンケートシステム作成：飯塚オブザーバー：渡邉、内川・目的、内容　現状の学校現場における指導（実習含む）と評価の実態の把握。　基本的な評価の手順・実態の把握⇒課題の明確化。4. アクションリサーチについての検討・役割分担　リーダー：瀧本メンバー：植上・小田、学校協力：岩崎・田澤・(近藤)　オブザーバー：渡邉、内川・アクションリサーチの実施に関しては、新型コロナウイルス感染の状況を見ながら実施を検討する。5. スケジュール調整・第2回学習評価WG会議（オンライン会議）…会議後日程調整・第3回学習評価WG会議（10月下旬）・第4回学習評価WG会議（12月下旬）・第5回学習評価WG会議（1月中旬）・アンケート調査の実施（10月上旬）⇒分析（10月中・下旬）・アクションリサーチ予備調査の実施（9月下旬―10月上旬）・アクションリサーチ調査の実施（11月―12月）※学習評価WGの開催方法は、基本的には対面(福岡・日帰り)で設定するが、状況によってオンラインを検討していく。6. 事務局から・移動の際はGoToキャンペーンの使用は禁止。 |
| 配布資料 | ・事業計画書・2020年度学習評価WGの事業計画（20200826）・2020年度学習評価WGの調査計画（20200826）・20191107 IRC評価シート・シラバス（インターンシップ）・シラバス（インターンシップ）変更前 |

以上